

平成21年度第3回千葉県図書館協議会議事録（要録）

- 1 日 時 平成22年3月18日（木）
午後2時から午後3時50分まで
- 2 場 所 千葉県立中央図書館 講堂
- 3 出席者 （委 員） 磯 野 嘉 子 伊 藤 修 一
川 津 敏 子 齊 藤 栄
島 利栄子 永 野 慎 護
本 吉 貞 夫
- （生涯学習課） 藤 川 洋 子
中央図書館長 松 永 光 男
西部図書館長 篠 原 やす子
東部図書館長 野 沢 洋 子
- 他12名
（傍 聴 者） なし

4 議 題

- (1) 平成21年度県立図書館事業について（経過報告）
(2) 平成22年度県立図書館運営方針（案）
(3) その他

会議開会宣言の後、図書館協議会会議運営規則第6条の規定に基づく会議成立の確認がなされた。

次に、議長からあいさつをいただいた後、議事が進められた。

<会議録>

議 長 それでは、議事（1）平成21年度県立図書館事業（経過報告）について、事務局から報告をお願いします。

事務局 平成21年度県立図書館事業（経過報告）（資料1）に基づき経過報告。

議 長 ただいま、中央図書館長から全体的な報告がありましたが、何か付け加えることはありますか。

事務局 西部図書館長より「図書館まなびトーク」の内容について報告。

事務局 東部図書館長より読書感想文の募集について報告。

議 長 特色ある事業がなされ、またサービス目標の達成状況も目標以上の結果が出てい

るという感じを受けました。委員の皆様から御質問や御意見をお願いします。

委員

ただいまの御説明や資料から、皆さんの頑張りや情熱が分かりうれしく思います。

東部図書館報『知識は旅をする』はカラーで美しい紙面になり、読書感想文も読みやすく、手に取られた方も約200字程度の感想文なら書いてくださるような雰囲気になっていきます。また、西部図書館の「まなびトーク」も大変興味深く拝見しています。素晴らしいですね、自分から進んで発表して下さって。また図書館の利用方法を皆さん方が案内する方法は、各市町村の図書館でも参考に出来るのではないのでしょうか。参加者数が毎回20～30人ですが、同じ方だけでしょうか。図書館に朝から晩までいても飽きない方や、あまり興味のない方にもこういったことを知らせれば、新しい顔ぶれが参加するのかなと感じました。

もう一つ、中央図書館の「食育」に関する企画展示には大勢の方がお見えになり成果があがったとお聞きしましたが、これも働きかけでもう少し参加者を増やせるのではないかと思います。せっかくの取組みですから展示物を中央図書館だけでなく、どこかに使ってもらう方法もないかと、少しもったいない感じを受けました。

事務局

「まなびトーク」の参加者については、大体半分くらいの方が新しい方です。西部図書館の利用者はある程度固定化し、年齢の高い方々が多いのですが、その中で常に参加される方もいらっしゃいますが、新しい方にも参加いただいております。4回目の「まなびトーク」を「県民だより」で広報したところ、件数的には少ないのですが問合せがきました。PRの仕方も検討していけば更に広げられると思います。また今年度は、パイロット事業—いわゆるモデル事業として行い来年度はPRして、状況を見ながら「まなびトーク」自体は回数を減らしてモデルケースを作っていく方法にしていきたいと考えています。

委員

西部図書館の「まなびトーク」ですが、県立図書館らしい「地域に貢献する、地域に密着したサービス」がだんだん軌道に乗ってきた感じですね。また、質というのもすごく大事で、県立図書館の蔵書に合わせた質をきちんと確保しているという点も素晴らしいと思います。県立図書館は市町村図書館と違い、蔵書も専門書が多いわけですから、質を高めた企画はとても良いと思います。

議長

ハード面の質問ですが、サービス目標の項目に資料の購入冊数があります。21年度達成目標が18,600冊。1月末現在で16,102冊となっていますが、予算的にはどのくらいでしょうか。

事務局

予算的には図書購入費が3館で8,500万円、逐次刊行物も含めた資料費の合計は1億500万円です。昨年度の1億1千300万円からは7パーセントの減額ですが、全国的に見ると3館合計の資料費は、東京都、岡山県、大阪府に次いで全国第4位の状況です。

議長 平成22年度予算はどれくらいですか。

事務局 22年度予算は当初減額という話しがあったのですが、結果的には今年度と同額を確保させていただきました。

議長 それは素晴らしいですね。君津市も年々厳しい状況が続いており、市立中央図書館の資料購入費は3千万になってしまいました。予算委員会でもずいぶん御指摘を受けましたが参考までに聞かせていただきました。現状維持確保というのは素晴らしいことです。

続きまして(2)平成22年度千葉県立図書館運営方針(案)について、説明をお願いします。

事務局 平成22年度千葉県立図書館運営方針(案)(資料2)に基づき説明。

議長 西部図書館、東部図書館で補足することがありますか。

事務局 西部図書館より補足説明。

事務局 東部図書館より補足説明。

議長 平成22年度の運営方針の説明がありましたが、大きく変わったところは1ページの国民読書年、8ページの広報啓発事業かなと思います。御質問などありましたらどうぞ。

委員 図書館サービス目標の12ページ、児童サービスを含めた貸出冊数を4パーセント増というのはどういう形で実現出来るのか。4パーセントという数値目標を出した理由ですね。前提として、ここの地域性を考えると現実に直接サービスで児童室の貸出率を上げるのはすごく難しいことですよね。そういう現状があって、県立図書館の直接サービスは、市町村図書館の児童書をバックアップするために、直接サービスが必要だという理論構成だったと思います。直接サービスで子どもたちの貸出しを上げられる可能性はどれくらいあるのでしょうか。

事務局 単年度では2パーセントになりますが、図書館ホームページに「としょかんたんけんたい」など子どもの感心を高めるページを新設したり、学校等への一括貸出サービスなど、貸出の増加が図れるサービスを考えていきたいと思っています。

委員 地域に密着した市町村図書館のようなサービスが出来るのであれば、直接サービスの貸出しを上げるのは可能だと思いますが、県立図書館の場合は、市町村図書館の児童サービスの質を向上させるためにバックアップする、そういう役割が大きいと思うのです。直接サービスで貸出冊数を上げるには、現場の担当者が近くの小中学校に直接アピールするとか、そういう手間を考えると県ではなかなか難しいと思います。あえてここで数値を上げる必要があるのか、貸出冊数ではなく別の方法もあるのではないのでしょうか。また、市町村図書館も団体貸出しをしますが、複本をたくさん持っています。県立中央の場合、昔はいい本だったらセットで貸出し出来

るくらい複本を持っていましたが、今は資料費を削られているのでワントイトル抑えるのがギリギリだろうと思っています。そうすると学校への団体貸出用の資料を県立中央で確保するのも難しく、今の県立の目標値としてはきついのではないでしょうか。

事務局 県立中央の児童の貸出冊数は約1万8千冊ですが、これがマックスなのかという
とそうではないと考えています。児童資料室のPRを充実させるとともに、これからは子どもに直接貸出すというよりも、指導者が借りて行って子どもたちに読み聞かせるなど、いろいろなパターンが考えられると思います。そういう需要も広げて
行って、貸出数を増加させていきたいと考えています。ちなみに、これは館長がこ
ういう目標を立てるということで立てたものではなく職員が自らこうしたいと考え
たものです。

委 員 国民読書年のイベントですが、県民に参加を呼びかけないのですか。

事務局 シンポジウムのパネリストは、大学教授、公共図書館の研究者、学校図書館や図
書館ボランティアの方を想定しており、図書館ボランティアの方などに参加いた
だきたいと考えています。主催者が関東地区公共図書館で、県立中央図書館は主管
いわゆる事務局の位置づけとなっています。定員は300名で図書館関係者150名
程度、残りが県民募集になりますが、県民への参加の呼びかけについては、主催者
と良く相談したいと考えています。

委 員 「子どもの心を育てる図書館ガイドブック」の改定について、冊子を作成しない
との御説明がありましたが、作成していただけますか。

事務局 来年度予算がないということと、厚い冊子なので、県民に配るものとしてはもう
少し工夫する必要があると考えています。例えば、ブックリスト、家庭や学校に図
書館が支援できる方策や先進のモデルケース等を提示出来ればと考えています。

議 長 ではそういうことで、今後よろしくお願ひしたいと思います。

平成22年度千葉県立図書館運営方針（案）につきましては特に加除訂正する
ところもなさそうなので、原案のとおりでよろしいでしょうか。

それでは、原案のとおり決定をさせていただきます。

次に（3）その他について事務局からお願いします。

事務局 生涯学習課から県の教育施策の動向等について説明。

議 長 この件について質問等ございますか。

特にないようですので以上を持ちまして議事を終了いたします。

※ここで議事は終了し、次回の図書館協議会は「平成21年度の事業報告について」を議題とし、6月下旬もしくは7月上旬頃の予定で実施することを報告して、平成21年度第3回千葉県図書館協議会を終了した。